

①



会議ではNIEアドバイザーらが活動のあり方などを熱心に話し合った

読解力向上へ「朝の新聞」

山形で北海道・東北会議

新聞協アドバイザー訴え

新聞協会の「北海道・東北ブロックNIEアドバイザー・NIE推進協議会事務局」が、9月30日、山形市の山形新聞社内で開かれた。アドバイザーら23人が参加。北海道NIE推進協議会からは朝倉一民アドバイザー（札幌市立屯田北小教諭）、川端裕介アドバイザー（函館市立亀田中教諭）、盛永美樹アドバイザー（平取町立平取中教頭）、渡辺多美江事務局長（道新NIE推進センター長）の4人が参加し、活動の現状や新学習指導要領などについて意見交換した。

会議では、新聞協会の関口修司NIEアドバイザーが「新学習指導要領とNIE」と題して基調提言。関口氏は「日本の中高生の読解力は危機的な状況だ。さらに自己肯定感や社会参画意識が低い」と現状を分析した。その解決策の一つとしてNIEタイムを紹介した。

「朝読書のような感覚で、新聞を読み、記事を選んで切り抜き、台紙に貼り付けてコメントをつける活動を継続的にやることを、アドバイザーを起点に広げたい」と呼びかけた。

各地からは▽教育委員会に学校での新聞購読を要請

し、8月時点で14市町村が小中学校の希望校に単独または複数の新聞を配備した（青森県）▽横手市教委にはNIE担当の指導主事が配置され、市教委管理のNIEの共有フォルダが活用されている（秋田県）などの報告があった。

親子新聞教室

夏休み親子新聞教室が8月8日、道新プラザDO BOX（札幌市中央区大通西3）で開かれ、親子連れ約20人が気になった記事を使いスクラップ新聞づくりに挑戦した。

北海道NIE推進協議会の主催。同協議会の開発好

「ニュース調べ」の効用

札幌市立陵北中教諭

永野亜也子



特別支援学級で、朝の会や国語、生活単元学習で身近なニュースをまとめて発表する「ニュース調べ」は多々あるかと思っています。私は約15年前に前任校で始め、朝の会で生徒をランダムに指名をして発表していました。

いので、視野を広げることと文章から大切な部分を読み取る学習になると思い「ニュース調べ」を行ってきました。

しかし、新聞をとっていない家庭、パソコンがなくネットニュースも見られない家庭（まだスマホが普及していませんでした）など、ニュースを調べられない環境にの

すると毎朝、新聞の周りに生徒たちが集まり、「フアイターズ勝ったね!」「ダルビッシュすげー!」などと、大好きなスポーツで盛り上がるようになりました。そのうちに私たちの狙い通

支援学級で実践／感想文で生徒に力

り、自然と身近でわかりやすい記事を探し「ニュース調べ」をするようになりました。このような朝の風景が日常となっていたので2013年、陵北中学校が特別支援学級を開級するにあたり、新聞は絶対に必要だ!と思いまし。豊島義明校長先生（当時・北海道NIE研究会会長）の紹介でNIEの実践指定校になりました。開級時は生徒1人、教師1人の学級だったの

で、毎日1時間目の最初の20分ほどを使って新聞記事から「いつ、どこで、なにがあった」を抜き出して書くという活動をしていました。文章読解が苦手な国語

のドリルへの取組も消極的でしたが、1年間毎日続けることで活字を読むことに抵抗感もなくなり、また「いつ、どこで、だれが、なにをした」を読み取ることにもすらすらとできるようになりました。

● ● ●

本年度は、ある程度国語が得意なグループを8人担当したので、ニュースへの感想も書くようにしました。4月当初は全く感想が書けなかった生徒がいました。その男子生徒はニュースに対して何も感じないということでずっと空欄のままでした。実は「書くなら面白いことを書きたいな」と思っていたといひます。

彼らは毎回国語の時間に記事の説明やそれに対しての他の生徒たちのやりとりを聞く中で少しずつ感想を書くようになりました。彼には「自分の意思をはっきり伝える」という個人目標があるので、この「ニュース調べ」が役買えたらいいと思っています。例えば、33キのウォーキング記事の感想では「33キも歩けないよ」と書くなど、結構「くす」と笑える思いを綴っています。

地道な活動ではありませんが、続けることによって生徒の力になるという実感がありますので、これからも「ニュース調べ」を続けていきたいと思っています。

授業で新聞活用 各地でセミナー

札幌 3年ぶり 40人熱く



第2回札幌地区セミナーが10月5日、札幌市立陵北中で開かれ、地方自治と選挙をテーマに公開授業が行われたⅡ写真Ⅱ。札幌での

地区セミナー開催は2014年以来3年ぶり。約40人が参加した。公開授業は3年生の社会科で、同校の佐藤雅哉教諭(35)が

憲法と人権学ふ

音更

第16回NIE十勝地区・十勝セミナーが8月31日、音更町立緑南中で開かれた。

北海道十勝新聞教育研究会との共催で、教員ら約30人が参加した。緑南中の掛水成幸教諭(39)が、3年生の社会科で「人権と日本国憲法」をテーマに公開授業を行ったⅡ写真Ⅱ。

授業では「帯広市の高齢者が多い地区で、唯一のス

新聞記事を活用して、議員のなり手不足から議会を廃止し有権者が予算などを直接審議する「町村総会」を紹介した。生徒に町村総会の利点や課題について、肯定派と否定派に分けてグループ討論をさせ、議会や選挙の意義を考えさせた。

実践報告は、札幌光星中学・高校の本多由佳教諭と中村大輔教諭による「新聞を通じて他者を理解する」ルクスプログラムと地歴・公民科における実践Ⅱ。アイヌ民族の記事を活用した日本史の授業や、高校3年生対象の4紙を読み比べる主権者教育の授業について報告した。



「パーが閉店」という新聞記事を素材に、生徒33人がグループ討議などを通じて「買い物弱者」の支援策を考えた。

掛水教諭は、「買い物ができるなど、日常生活に支障が出るということは、基本的な人権につながる話」と、生徒の理解を助けながら、

渡島管内の教員ら約30人が見学した。川端裕介教諭(36)は、北海道新聞のデータベースを使い、米国や中国など世界12カ国が新聞紙面に登場した回数を1990年代以降、年代別に表にして生徒に配布。グループ別でどの国が増えているか、その理由を考えさせた。

生徒たちは「中国が増えているのは急速に経済発展したからでは」となど発表

した。続いては函館市立えさ小の山田肇教諭と、函館稜北高の岡田敏嗣教諭が実践発表を行った。

「政治参加」テーマに旭川

第17回上川地区・旭川セミナーが11月7日、旭川市

立神居東中で開かれたⅡ写真Ⅱ。上川管内の小中高校



の教諭や大学生ら約70人が、授業での新聞の活用方法について学んだ。

「政治参加」をテーマに公開授業が3年生の社会科で行われ、埼玉県所沢市で学校へのエアコン設置を求めて実施された2015年の住民投票の結果が、投票率の低さから成立しなかった事例を取り上げた。同中の愛沢純一教諭(33)が住民投票の新聞記事を生徒に配り、地方自治が自分たちの生活に及ぼす影響などにつ

いて考えさせた。生徒からは「住民一人一人が主体的になることが大切」などの意見が出た。

続く実践発表では、上川管内の小中高3校の教員がそれぞれ記事の活用方法を紹介した。

旭川市立嵐山中の小林直樹教頭(49)は3年生の生徒3人が毎朝、気になった記事を切り抜いて持参し1分間スピーチをする学びをしていると報告した。



DBを活用し 思考を深める

函館

第16回渡島地区・函館セミナーが9月8日、函館市立亀田中で開かれⅡ写真Ⅱ。中学1年の社会科の授業で新聞のデータベース(DB)活用が公開された。

渡島管内の教員ら約30人が見学した。川端裕介教諭(36)は、北海道新聞のデータベースを使い、米国や中国など世界12カ国が新聞紙面に登場した回数を1990年代以降、年代別に表にして生徒に配布。グループ別でどの国が増えているか、その理由を考えさせた。

生徒たちは「中国が増えているのは急速に経済発展したからでは」となど発表

ら関連記事も紹介。「基本的人権は、特に弱い立場の人に必要なもの」と指摘し、授業を締めくくった。

親子新聞づくり体験会開催



室蘭民報の記事や写真を切り貼りし、スクラップ新聞をつくる親子たち

もらうなどの煩わしさもあつて、過去2回とも定員割れの状態だった。

◇

こうしたことを踏まえ、よりもっと多くの親子たちに気軽に体験会に参加してもらおうと、スクラップ形式の採用を検討。本社編集局スタッフにスクラップ形式の指導スキルがなかったことから「次回の体験会開催の参考に」と昨年、一昨年の2回、北海道NIE推進協議会さんが主催する「夏休み親子新聞教室」を見学させていただいた。

見学の際、実際に新聞を作らせてもいただいたが、これが大変…。新聞の

が参加してくれた。事前にスタッフが悪戦苦闘の末、サンプル紙面をつくり指導技術を磨いた。

参加の子どもからは「面白かった」「楽しかった」、父母からも「勉強になりました」「いい経験ができました」などとおおむね好評の感想が聞かれた。社内見学会も実施し、印刷工場など実際に紙面ができるまでを見てもらい、新聞に親しんでもらう機会となったのではない。

◆

各紙「子ども新聞」「教育欄」に力を入れている。本紙も子どもの教育面を「サンデー・キッズ」として毎週日曜日にカラーで見開き2ページ展開。加盟している共同通信社さんも子ども向け・教育関係の記事配信を強化している。

昨今、若者の新聞離れ、活字離れが叫ばれ久しい。子どもにもインターネットやスマートフォンが急速に浸透。情報が氾濫する中において、新聞には我々の諸先輩たちが築き上げてこられた信頼性と確かな情報、地元から世界の話題が一覧性をもって、きめ細かく掲載されている強みがある。ある調査では「日ごろから新聞を読む子どもは学校の成績も伸びる」というデータもあるという。これらを十分に生かし、伝え、これからのなお一層、子どもや若者に親しめる新聞、魅力ある紙面づくりを目指す。

子どもに親しまれる新聞を

室蘭民報社 編集局整理制作センター 整理部長 能登哲也

8月、本社で「夏休み親子新聞づくり体験会」を開催した。対象の子どもは小学生。3回目の取り組みとなる今年は、初めて「スクラップ」形式を採用した。

しかし、記事部分となる作文や写真を事前にシステムに取り込むため、参加希望の子どもたちに、素材を夏休みに入る前に用意して

テーマは？ 紙面の空間の使い方は？…見るのと実際につくるのでは大違い…。二十数年前、電子編集前の「手貼り時代」の経験で多少の自負はあったものの、はさみとノリで「格闘」。コーディネート、ネットの開発好博さんたちからアドバイスを受けたにもかかわらず、完成した新聞は「トホホ…」お粗末な仕上がりとなくなってしまう。



こうして迎えた体験会には親子5組、7人の子ど

記者と教諭ら
新聞実践熱く

NIE研修会

教師らでつくる北海道NIE研究会(会長・上村尚生札幌市立星置東小学校長)の夏季研修会が8月7日、北海道新聞本社で開かれ、約30人が講演や実践発表を通して意見交換した。Ⅱ写真

読売新聞北海道支社の早坂学編集部長は講演で、調査報道の重要性を紹介。「一つの事柄を問題意識をもって長期に取材し続ける



編集後記

11月下旬、京都で開催されたNIE学会宇治大会に参加し、全国の学校教諭や大学関係者が熱く語る研究報告に耳を傾けました。主権者教育、大学入試改革…国内の教育熱は高まるのにかうした報告は部外者には

調査報道は、社会を動かす」と話した。自身が手がけた子どもの貧困に関する報道について「子どもからの反響が際立った」と振り返り「こうした調査報道の中には教育現場で活用できるものも結構あるのではないかと提言した。また「子どもが楽に読める新聞記事は12字詰め30行が限界」と記事活用の際の工夫も披露した。

実践発表では、中標津町立俵橋小の中原英雄校長が①全校で②継続的に③全教育活動で取り組む「NIE3つの挑戦」によって、主体的な学びが実現できたなどの成果を報告した。森高校の山本かおり教諭は高校新聞の顧問を長年務めてきた経験から「新聞を通じて生徒、指導者、社会がつながる」と重要性を強調した。旭川大の斎藤真宏准教授は、同大の社会科教員養成課程でのNIE実践を紹介した。NIEの導入により学生は「社会とのかかわり」「クリティカルシンキング」などでの新聞の効用に気づいたという。

意外に知られていません。レベルが高すぎたり、一見地味に見えたりするからでしょうか。平易に、的確な価値判断を加える。「NIE通信」の役割はまさに読者との橋渡しにあると思います。10月に職場に戻り、通信の担当になりました。よろしくお願ひします。(森)